Kyoto City Child Rearing Support Center Kodomomiraikan
京都市子育て支援総合センター
こどもみらい館
研究・研修だより

かがやき

Vol.28
2013.
1月

共同機構研修のアンケート集計について

共同機構研修では，毎回の研修会で参加者にアンケートのご協力をお願いしています。アンケートの記述欄に「集計はどのように活用されているのですか？」というご質問をいただき，今回の研究・研修だより「かがやき№28」で活用方法をお知らせします。

こどもみらい館共同機構研修は，こどもみらい館企画推進会議 研究・研修部会の中で協議，決定をし，計画を進めています。研究・研修部会委員には，各共同機構団体から代表で出席いただいております。皆さまがご記入いただきましたアンケート内容は，研究・研修部会でこどもみらい館から部会委員に毎回の研修の参加状況をはじめ，成果や今後の課題について報告をしています。研修のテーマや講師の選定，当日の設営方法等，アンケートの記述内容を基に検討を重ね，これからも共同機構研修がより良い研修会となるように活用させていただきます。

第13回　「みらいっこまつり」開催報告

平成２４年１２月１４日（金）・１５日（土）

京都市保育園連盟「エアマットであそぼう」，京都市私立幼稚園協会「みらいっこわくわくコンサート」，京都市保育士会「わくわくステージ・みんなあつまれ」，京都市営保育所長会「赤ちゃんふれあいコーナー」，京都市立幼稚園長会「クリスマスの飾りを作ろう」，NPO法人京都子育てネットワーク「赤ちゃんあそびましょ～♪」など，共同機構の各団体の皆様にも楽しいイベントを企画・運営していただき，盛況に終えることができました。本当にありがとうございました。

エアマットであそぼう

京都市保育園連盟

みらいっこわくわくコンサート

京都市私立幼稚園協会

わくわくステージ・みんなあつまれ

京都市保育士会

赤ちゃんふれあいコーナー

京都市営保育所長会

クリスマスの飾りを作ろう

京都市立幼稚園長会

赤ちゃんあそびましょ～♪

NPO法人京都子育てネットワーク

平成24年度 共同機構研修会 第3回

京都市保育士会共催

一人ひとりの子どもの豊かな育ちを支える保育

講師　河嶋　喜矩子　京都聖母女学院短期大学教授

京都教育大学教育学科卒。京都教育大学附属幼稚園，京都市立幼稚園の教諭として保育現場で活躍。京都教育大学附属幼稚園副園長を勤め，定年退職後，関西国際大学子ども学科准教授を経て，現在，京都聖母女学院短期大学児童教育学科教授，京都教育大学非常勤講師。著書に「幼児教育を学ぶ人のために(共編著)」「新しい幼児教育を学ぶ人のために(共編著)」「保育のポイント１００(共著)」

「保育」には3つの意味があると思います。「保護し育てる」「養護的機能と教育的機能が一体となったもの」そして，私がとても大事にしていることですが「子どもを守り　あたたかく包み込んで　愛しき情(こころ)で慈しむ」です。慈しむ情(こころ)というのは本当に保育で大事な意味ではないだろうかと思います。

子どもを観るときには二つの目が必要です。“まなざし”と“指導”の目です。保育にはこの二つの目が必要になってくるのではないかと思っています。まなざしの目とは，子どもの心をよみとる目，子どもの気持ちが分かる目，言い換えると共感力とも言えます。暖かい態度で受容的に共感的に子どもに寄り添っていこうとする姿勢のことを“目”と言っているわけです。指導の目とは，子どもの育ちをよみとる目，言い換えると子どもの良いところを伸ばし，悪いところを見つけて正していく関わりということです。一人ひとりの育ちのために環境を提案する力，保育構想力と言ってもいいと思います。私たち保育者が保育を行うとき，子どもを理解するということが出発点にあります。子どもを理解するためには子どもを見なくてはいけません。目の前の子どもの実態を理解する，把握する目です。そして，保育をつくっていく力，これが今求められているのです。

保育をしている限り悩みはつきものです。私は，悩みを持っている先生は素晴らしい先生だと思います。その悩みについて考えていくことが子どもの育ちを豊かにしていく原動力になっていくのではないでしょうか。

＜参加者のアンケートより＞

「保育に関わる基本的な姿勢や原点を振り返ることができました。先生の歌声が優しくて癒されました」「目に見えない心の部分に触れたお話，心が温かくなりました」という感想がありました。

この講演会のビデオ・ＤＶＤを貸出しています。貸出要項へ
講義の詳細は，要録ページをご覧ください。　要録ページ

平成24年度 共同機構研修会 第4回

京都市保育園連盟共催

ちょっと気になる子どもたちと保育

講師　小枝　達也　鳥取大学教授

鳥取大学地域学部地域教育学科教授。医学博士。鳥取大学附属小学校長併任。日本小児神経学会，日本小児保健学会，日本認知神経科学会に所属。研究分野は小児神経学，発達障害医学。2006年 文部科学省　中央教育審議会幼稚園教育専門部会委員。著書に「ＡＤＨＤ，ＬＤ，ＨＦＰＤＤ，軽度ＭＲ児保健指導マニュアル　ちょっと気になる子どもたちへの贈りもの」「育てにくさに寄り添う支援マニュアル」等。

発達障害に保育園（所）・幼稚園で気付くための視点ですが，認知・注意集中・興味関心の順にみていくことが大切です。認知は，本当にこの子は分かっているのかという視点で見ることです。注意集中は，指示を最後まで聞き続けているのかが問題です。そして，興味関心が独特かどうかに注意することです。幼児期にはちょっと気になる程度ですが，学齢期になると問題が顕在化してきます。発達障害のお子さんの困り感は，早期に気付くことで少なくて済みます。
また，子どもの特性に合わせた対処法があります。たとえば，自閉症の子どもには「見て分かる工夫」や「終わりの予告，次の行動の予告」をして安心感を与えることが効果的です。叱るよりも取るべき行動のモデルを示し，こまめに褒めると驚くほど子どもは変わります。

落ち着かない，指示が入りにくい，かんしゃくが多い，勝手な行動をするなどちょっと気になる行動をする子どもたちも様々な気付きの視点と対処法があります。
先生方には，気付きの共有を出発点として，記録に残すこと，具体的にその姿を伝え合うこと，振り返り変容を確かめることをしてほしいと思います。園内での検討委員会ができるといいと思います。

＜参加者のアンケートより＞

「園で話し合い早期に対応できるようにしたいと思います」「言葉ばかりが先行し，十分な知識がありませんでしたが，今回とても勉強させていただきました。繰り返し資料を見返し，今後に活かします」という感想がありました。

講義の詳細は，要録ページをご覧ください。　要録ページへ

子どもを育む喜びを感じ，親も育ち学べる取組を進めます。
(「子どもを共に育む京都市民憲章」より)

発行日　平成25年1月16日
発行者　京都市子育て支援総合センターこどもみらい館
〒604-0883　中京区間之町通竹屋町下る楠町601-1
Tel (075)254-5001　Fax (075)212-9909
ＵＲＬ　http://www.kodomomirai.or.jp